

| ポスター番号 | タイトル・著者・所属 | ポスター番号 | タイトル・著者・所属 |
|--------|--|--------|--|
| P1 | <p>食用カンナにおける倒伏被害の軽減に関する基礎的研究 木谷亮介*・今井勝 (明治大学農学部)</p> <p>食用カンナの倒伏に関わる外力および内力は、生育に伴う形態変化により増加した。草高短縮による倒伏軽減効果と減収の予測より、草高は2.3m程度が良いと考えられた。</p> | P6 | <p>水稲ビニールプール育苗法の改良に関する検討 高橋行継^{*1)}・吉田智彦²⁾ (¹⁾群馬県西部農業事務所・²⁾宇都宮大)</p> <p>水稲プール育苗の際に育苗箱裏面に発生する根層の対策を検討した。その結果、育苗箱とプール床との間に1cmの隙間をあけることで根の発生形状を変え、移植時に行う根の除去作業が省力化可能であることがあきらかになった。</p> |
| P2 | <p><i>in vitro</i> での食用カンナ幼植物の形態形成に及ぼすジャスモン酸および温度の影響 酒井隆成*・今井勝 (明治大学農学部)</p> <p>ジャスモン酸処理による食用カンナ幼植物の形態形成を観察した。ジャスモン酸は根茎形成を誘導するが、肥大を継続する主要因ではないと思われた。</p> | P7 | <p>飼料イネ有望品種・系統による多収実証 石川哲也*・石田元彦 (中央農業総合研究センター)</p> <p>茨城県つくばみらい市の農家圃場で、飼料イネ有望品種・系統を用いて、稚苗移植栽培で1400g・m⁻²以上、湛水直播栽培で1200g・m⁻²以上の全刈り乾物収量を実証した。</p> |
| P3 | <p>高温・高CO₂濃度環境が播種時期および品種の異なる水稲の光合成に及ぼす影響 丸山和美*・今井勝 (明治大学農学部)</p> <p>高温・高CO₂により葉の展開直後の光合成は促進され、その後急激に低下した。その程度は品種により異なったが、測定時の生育段階の差によるものかも知れない。</p> | P8 | <p>品種と移植時期の組み合わせによる飼料イネ収穫適期の拡大 石川哲也*・石田元彦 (中央農業総合研究センター)</p> <p>晩生の飼料イネ専用品種「リーフスター」を7月中旬に移植すると、黄熟期は6月下旬移植の「うしもえ」から28日後となり、収穫適期を拡大することが可能となった。</p> |
| P4 | <p>地下水位がサトイモの光合成に及ぼす影響 坪井康行・今井勝* (明治大学農学部)</p> <p>ライシメータを用いて地下水位がサトイモの光合成に及ぼす影響について検討した。純光合成速度が最も高い値を示した地下水位40cm区程度が適湿であると考えられた。</p> | P9 | <p>フルボ酸の施用がラッカセイの生育および収量に及ぼす影響 和田美由紀^{*1)}・佐藤匡臣²⁾・野島博¹⁾ (¹⁾千葉大学自然科学研究科・²⁾関東天然瓦斯開発株式会社)</p> <p>150ppmのフルボ酸をラッカセイの株元に開花期に4期に分けて施用したところ、開花盛期施用で開花数に開花終期以降の施用で子房柄数および莢数に増加がもたらされた。</p> |
| P5 | <p>ビール大麦「サチホゴールド」の高品質・多収栽培に関する研究 渡邊浩久^{*1)}・加藤常夫²⁾・大関美香¹⁾・春山直人¹⁾・長嶺敬¹⁾ (¹⁾栃木県農業試験場栃木分場・²⁾現栃木県経営技術課)</p> <p>ビール大麦「サチホゴールド」の高品質・多収栽培には、①穂数の確保、②側面裂皮の抑制、③粗蛋白質含量の安定が重要である。</p> | P10 | <p>生育段階別の培養液濃度の違いがオタネニンジン¹⁾の生育に及ぼす影響 仲澤康治*・野島博 (千葉大学自然科学研究科)</p> <p>茎葉展開期の養分供給は葉面積を拡大し、根乾物重を増加させた。茎葉展開期以降の養分供給も葉色を保ち、葉を厚くし、根乾物重を増加させた。</p> |

| ポスター番号 | タイトル・著者・所属 | ポスター番号 | タイトル・著者・所属 |
|--------|--|--------|---|
| P11 | <p>ブライミング処理がラッカセイ種子の発芽に及ぼす影響 宇都弘晃*・野島博 (千葉大学大学院園芸学研究科)</p> <p>ラッカセイ種子にマトリック・ブライミング処理を行い、発芽、発芽勢への効果、また低温発芽性改善の可能性を検討した。処理によりそれらの改善が見られラッカセイ種子に対してもマトリック・ブライミングが有効な手段であることが分かった。</p> | P16 | <p>水稻品種コシヒカリとハバタキの乾物生産とこれに関わる生理生態的性質の比較 浅沼俊輔・鶴裕貴*・末吉知洋・二戸奈央子・大川泰一郎・平沢正 (東京農工大学大学院農学府)</p> <p>ハバタキはコシヒカリに比較して、出穂期から登熟中期にかけての最大光合成速度が高く、吸水能力が高いことによって高い光合成速度を1日を通じて維持していた。</p> |
| P12 | <p>水稻の耐暑性の品種間差異に関する研究—出穂期の葉身および穎の温湿度と形態情報— 芹沢宗一郎^{*1}・松岡延浩¹・小川幸春¹・江原博²・橋本篤²・田代亨¹ (¹千葉大学・²三重大学)</p> <p>イネの耐暑性の異なる品種を用いて、耐暑性の強弱と蒸散量・気孔抵抗などの生理的特性、気孔・毛などの形態的特性との関連性を検討した。</p> | P17 | <p>飼料用水稻長稈新系統「関東飼225号」の光合成特性の解析 大川泰一郎¹・長谷部弘毅^{*1}・臼田秀明²・加藤浩³・平沢正¹ (¹東京農工大学大学院農学府・²帝京大学医学部・³農研機構作物研究所)</p> <p>登熟期における関東飼225号の大気CO₂濃度下の光合成速度が日本晴に比べて高いことには、拡散伝導度、炭酸固定効率がともに高く維持されることが関係する。</p> |
| P13 | <p>中国乾燥地における腐植物質の葉面散布がダイズの生育に及ぼす影響 磯田昭弘¹・宮内陽介^{*1}・王培武² (¹千葉大学園芸学部・²石河子中亜干早農業環境研究所)</p> <p>中国乾燥地において腐植物質の葉面散布がダイズの生育および収量へ及ぼす影響を検討した。腐植物質の葉面散布により莢数、粒数、子実収量が増加した。</p> | P18 | <p>Deficient soil-moisture conditions before heading render wheat plants more resistant to drought during ripening Amirjan Saidi*, Taiichiro Ookawa, Takashi Motobayashi, Tadashi Hirasawa (Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology)</p> <p>コムギを出穂期以前に低土壌水分条件に生育させて根系を良く発達させると、登熟期の無灌水条件でも乾物生産速度を高く維持し、子実重の増加量を大きくさせることができた。</p> |
| P14 | <p>密植条件下における日中ラッカセイ品種の受光態勢と収量 磯田昭弘・鶴飼篤* (千葉大学園芸学部)</p> <p>密植条件下で日中ラッカセイ16品種の葉群構造と受光量を調査し、収量性ととも受光態勢について評価した。</p> | P19 | <p>塩ストレス条件下におけるオオムギ幼植物の根と茎葉部の成長の品種間差 平沢正¹・渡邊珠貴^{*1}・武田和義²・大川泰一郎¹ (¹東京農工大学大学院農学府・²岡山大学資源生物科学研究所)</p> <p>オオムギ幼植物の塩ストレス下での初期成長反応は、乾物生産の大きかった品種は小さかった品種に比べ成長抑制程度が葉で大きく、根では小さいことが分かった。</p> |
| P15 | <p>コシヒカリ／ハバタキ染色体断片置換系統を用いた水稻の強稈性に関わる形質の遺伝子座の解析 大川泰一郎¹・川田竜也^{*1}・蛭谷武志²・村田和優²・平沢正¹ (¹東京農工大学大学院農学府・²富山県農業技術センター)</p> <p>コシヒカリ／ハバタキSL1はコシヒカリと比較して、断面係数、断面二次モーメントが高く、第1染色体の短腕末端に両形質を高める遺伝子座があると推定された。</p> | P20 | <p>低湿水田における地下水位と追肥施用が小麦品種“ミナミノカオリ”の収量と子実中粗タンパク質含有率に及ぼす影響 宇賀神七夕子*・小山豊・在原克之 (千葉県農業総合研究センター)</p> <p>低地水田においても、出穂期追肥を行うことにより、小麦の粗タンパク質含有率及び容積重が増加した。しかし、地下水位の高い圃場では、収量と品質を確保するには、地下水位を下げたうえで出穂期追肥を施用する必要があった。</p> |

| ポスター番号 | タイトル・著者・所属 | ポスター番号 | タイトル・著者・所属 |
|--------|---|--------|--|
| P21 | <p>全面全層播き水稲乾田散播栽培における出芽の安定化 大内昭彦*・篠田正彦・小山豊・在原克之 (千葉県農業総合研究センター)</p> <p>全面全層乾田散播において安定した苗立ち数の確保を図るには、播種後の耕深を5cmとすることと播種後の鎮圧が有効であった。</p> | P26 | <p>湛水直播栽培における作溝形状の違いが水稲の生育・収量に及ぼす影響 君嶋治樹*・前田忠信 (宇都宮大学農学部附属農場)</p> <p>水稲の作溝直播栽培において苗立ち・生育の安定化を図るため、異なる4つの作溝形状を比較し、その生育・収量の検討を行った。</p> |
| P22 | <p>米麦二毛作体系における飼料イネ作付と堆肥施用が小麦の収量・品質に及ぼす効果 酒井和彦 (埼玉県農林総合研究センター)</p> <p>米麦二毛作体系では、飼料イネの作付け前の牛糞堆肥の施用により小麦の収量及び品質が向上する。小麦連作ほ場ではその効果はさらに高まる。</p> | P27 | <p>水田圃場内における土壌水分とコムギの草丈の関係 小柳敦史 (作物研究所)</p> |
| P23 | <p>水稲品種‘彩のかがやき’の品質実態と良食味生産への対応策 酒井和彦¹⁾・畑克利²⁾ (¹⁾埼玉農総研・²⁾埼玉農総研水田農業研究所)</p> <p>水稲‘彩のかがやき’の良食味生産には、適切な施肥管理と併せ、土壌CEC値が20meq/乾土100g未満の場合は6月上旬までに、20meq以上の場合は5月下旬までに移植する。</p> | P28 | <p>多収性水稲の水田における窒素収支と穎花生産性の解析 高戸亮¹⁾・上地由朗²⁾・櫻谷哲夫²⁾ (¹⁾東京農業大学・²⁾東京農業大学短期大学部)</p> <p>水稲タカナリを供試し、基肥窒素と幼穂発育期追肥窒素を組み合わせた27試験区を設定した栽培試験を行い、窒素収支を調査し、穎花生産性の解析を行って低投入型窒素施肥管理にアプローチした。</p> |
| P24 | <p>早播きによるダイズ品種「作系4号」の収量増加について 磯部勝孝*・高島徹・井上裕子・佐藤弥幸・橋本千恵・前川富也・石井龍一 (日本大学生物資源科学部)</p> <p>作系4号の南関東における播種適期の検討を行った。4月播きでは開花盛期以降の栄養生長期間が確保され、開花数と莢数、収量の増加を引き起こした。</p> | P29 | <p>高温登熟条件下の多肥栽培で多発した不完全登熟粒の胚乳構造 沖田歩惟^{*1)}・松田智明¹⁾・高田聖²⁾・新田洋司¹⁾ (¹⁾茨城大学農学部・²⁾高知県農業技術センター)</p> <p>高温登熟条件下の多肥栽培で多発した不完全登熟粒の胚乳構造を走査電子顕微鏡(SEM)を用いて観察した。</p> |
| P25 | <p>水稲有機栽培における耕種法の違いが水稲の生育収量、土壌養分、雑草発生に及ぼす影響 雑賀正人*・前田忠信 (宇都宮大学農学部附属農場)</p> <p>水稲有機栽培の耕種法をかえた場合における生育・収量、土壌養分、雑草発生について比較検討した。不耕起表層は土壌養分に富み、穂数は増えたが倒伏した。</p> | P30 | <p>炊飯に伴う不完全登熟粒の粒形変化と米粒内部における糊化進行 渡部健一*・松田智明・岩澤紀生・新田洋司 (茨城大・農)</p> <p>炊飯に伴う不完全登熟粒の粒形変化の原因について走査型電子顕微鏡(SEM)を用い検討した。</p> |

| ポスター番号 | タイトル・著者・所属 |
|--------|---|
| P31 | <p>水稲糯品種の胚乳の白色不透明化に関する構造的 特徴 小越美和*・松田智明・岩澤紀生・新田洋司 (茨城大学農学部)</p> <p>水稲糯品種の胚乳における白色不透明化と構造的 特徴との関係を走査電子顕微鏡(SEM)を用いて観察し た.</p> |
| P32 | <p>水稲登熟初期の高温条件下における胴割れ発生に 関する構造的要因 山田恵子^{*1)}・岩澤紀生¹⁾・松田智明¹⁾・長田健二²⁾・ 新田洋司¹⁾ (¹⁾茨城大学農学部・²⁾東北農業研究センター)</p> <p>登熟初期の高温が胚乳貯蔵物質の蓄積構造におよぼ す影響と、胴割れ米の発生との関係について検討し た.</p> |
| P33 | <p>2006年茨城県産コシヒカリにおける食味関連形質と 炊飯米の微細構造 新田洋司¹⁾・八巻圭蔵^{*1)}・玉置あゆみ¹⁾・松田智明¹⁾・ 飯田幸彦²⁾・塚本心一郎²⁾・池羽正晴²⁾・田中研 一²⁾ (¹⁾茨城大学農学部・²⁾茨城県農業総合センター)</p> <p>2006年茨城県産コシヒカリは、精米のタンパク質・ アミロース含有率はややばらついたが、炊飯米の食 味は良好で、表面および表層部で良食味米の構造的 特徴を有していた.</p> |
| P34 | <p>X線マイクロアナライザーによるイネ科牧草4種の ケイ素蓄積の解析 阿部 淳^{*1)}・アレキサンダー ルックス²⁾・服部太 一朗^{1,3)}・辻 涉³⁾ (¹⁾東京大学大学院農学生命科学研究科・²⁾コメニウ ス大学理学部・³⁾鳥取大学乾燥地研究センター)</p> |
| P35 | <p>イネ幼植物における窒素利用の品種間差 綱島沙織・佐々木治人・青木直大・山岸徹・大杉立 (東京大学大学院農学生命科学研究科)</p> |